

## 助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人農の未来ネット

代表者・役職名 氏名 理事長 後藤光蔵

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

多摩地域都市農業振興に向けた市民支援活動の仕組みづくり事業

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

わが国の農業は、農業就業人口の減少と高齢化が進展し、担い手の育成・確保が喫緊な課題となっています。” NPO 法人農の未来ネット “は、食料自給率向上を目指しつつ、農業経営の担い手を積極的に支援するとともに、農業の重要性の理解促進と新たに就農を望む人の掘り起こす運動を行うことによって、元気農業・いきいき農村、国内農産物の消費拡大の実現に寄与するため、農林水産省元職員、大学関係者、生産者、消費者が一体となって2009年3月に設立しています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

“農の未来ネット”は、農業の担い手への支援と新規就農促進を目的に農業に関心、意欲ある青年・学生を対象に農業に関する学習に加えて農家での滞在型インターンシップや年間を通じた援農を展開。多摩地域では、人で不足の専業農家への継続的な援農を通して農業への理解を深めるとともに微力であるが農家支援により都市農業の持続に貢献してきた。2022年の生産緑地の解除による多摩農家の急激な減少に対応するため、これまでの“農の未来ネット”の活動実績を踏まえて、本助成事業を行うことによって更に強化・拡大し、持続ある多摩農業の実現に貢献できるものと考えています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

1. 参加学生、受け入れ農家拡大のためのプロモーション活動

①参加学生拡大の取り組み

・先生の人的ネットワークを活用した他大学への参加者募集プロモーション活動(3大学+多摩地域の大学に参加を呼びかけ)

・モニター体験農業の開催

②体験農業受け入れ農家の拡大(現在受け入れ農家ネットワークの活用)

2. 多摩地域農業(都市農業)に関する教養、関心の醸成

①学生による多摩地域農業の調査・学習活動

・統計分析、特徴的な農家へのヒアリング調査による多摩農業の実態(ex農業生産と流通、市民の農業の関わり等)

・学習会の開催

②受け入れ農家との交流

・農家経営者と収穫祭の実施

・農家とのフリーディスカッションを実施

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT. 実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME. 事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT. 事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

農業体験の取り組みでは、年間延べ94名の学生が参加し、受け入れ生産者とのコミュニケーションを通じて農業の重要性を学んだ。また、参加学生拡大の取り組みでは、東京農業大学と協議し、2018年度からの参加意思が確認され、また一歩前進できた。多摩地域農業調査は、「東京都多摩地域農業の将来を考える」をテーマに、立教大学の教授及び学生、農の未来ネット事務局と共同で実施。多摩地域の現状を把握するため、農業センサスを使った統計分析及びヒアリング調査を東久留米市の農家等で実施した。統計分析及びヒアリング調査をもとに、多摩地域での農業生産者が抱える課題等を整理し、多摩地域農業の展望を考察して、調査レポートを取りまとめることができた。調査に当たっては、多摩地域農業に関する学習会を開催し、理解を深めた。農業体験参加者と生産者等の交流を目的とした収穫祭を7月8日に開催し、友好を深めることができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2017年に「多摩地域農業の理解を深め、その役割を広める事業」の中で、多摩地域の農業の実態及び農家労働力の充足状況と援農ボランティア支援の状況についての調査を実施。多摩地域の農家では、中核的農家への農地の集約化が進む一方で、小規模農地保有農家の減少が判明。小規模農地保有農家では、援農人材(学生、一般市民等の援農ボランティア)を確保したいとしているが、ボランティアとの齟齬から、援農ボランティア受け入れを中止する農家もみられた。昨年度の調査結果を踏まえ、労働力を求める農家、援農に関心ある市民をつなぐことが、多摩農業の振興と魅力を生み出すものであり、そのための切っ掛け、動機づくりとして成功事例を提示することが課題と考えている。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

農作業体験（6月10日）

ハウスのアスパラ撤去作業（上）

農作業終了後の生産者（左）とミーティング（下）





# 収穫祭（7月8日）

収穫祭の準備（上）

盛り上がる収穫祭（下）

